

気が付くともうすぐ4月。1月は行く、2月は逃げる、3月は去る。あっと言う間に時間が経っていく今日この頃ですが、皆さんいかがお過ごしですか？
クリニックの庭のさくらも満開になりました。クリニックが少路に来てから10年経ち、桜の木も大きくなりました。

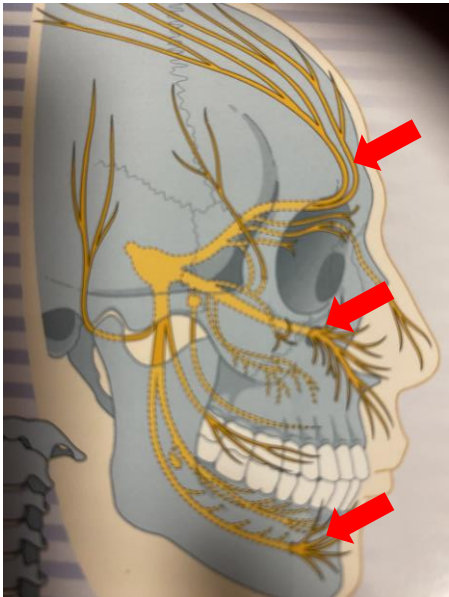
「花屋はその花をほめ、植木屋はその幹をほめ、果物屋はその果実をほめるが、桜の木自身にあっては、そのような善悪差別を絶したところにただ成長があるばかりだ」とは有島武郎の言葉。私が座右の銘にしている言葉です。若いころ、そんな風に生きていきたいと思ったものです。



さて、今月は前回の続きでしたね。

帯状疱疹は難しい病気だと思います。

今まで病気をしたことがなかったという方がよくおられますが、歳をとると、帯状疱疹に罹ることがあります。ご高齢者にとっては、がんになるのと同じくらい大きな出来事です。強い痛いで食欲も落ち、寝込んでしまわれることもあります。痛みの改善は、重症度によって異なりますが、その他、年齢、発症した場所、性格などが影響します。ご高齢者ほど治りにくく、顔や前胸部にできると治りにくく、くよくよする神経質な性格の方ほど治りにくいようです。



一番大切なことは、前回もお伝えしたように、発症してなるべく早く神経ブロック治療を始めることです。皮膚が治ってからでは遅いです。

顔、特に額や頭の中によく出現しますが、その時は、三叉神経ブロックと星状神経節ブロックを行います。局所麻酔薬で傷んでいる神経に麻酔をかけると、神経の過敏な反応がだんだん弱くなっていきます。

背中から胸部にかけて出現した場合は、胸部硬膜外ブロックを行います。血圧が下がりやすい場所で非常に難しいブロック注射ですので、レントゲンの透視装置

を見て、正確に行います。お腹にできると、腸にまで届き、腸の動きが悪くなって便秘がひどくなる場合があります。気を付けましょう。

陰部にできた場合は、腰の一番下、仙骨から硬膜外ブロックをします。また、腰から下にできた場合は、腰部硬膜外ブロックを行います。足にできると、足の力が入りにくくなります。転倒に気を付けましょう。